

ペルー ラ・モリーナ国立農業大学
国際農業開発学科 3年 西岡 桂

こちらに来て一カ月がたちました。すっかり日に焼け、生活にも慣れてきたところです。さてこの一か月、覚悟していた以上に目まぐるしい一か月でした。リマ到着翌日、新居に移住し、生活に必要なもの一式買い揃えました。前回渡航した際にお世話になった友人の家族が助けてくれました。本当に感謝しています。

次の日から大学の授業が始まりました。私はアマゾンに住む先住民の生活を学ぶ文化人類学、コーヒーやパイナップルなどの栽培方法を学ぶ熱帯作物学、そしてバスケットボールの授業を聴講生として取っています。授業は朝8時から2時間で、週2回の4時間です。学生は通常5科目履修するそうです。私が履修している授業は各30人ほどで、皆よく質問をし、積極的です。こちらでは小学生の頃から宿題を大量に課され、毎日宿題をこなすのに多くの時間を割くそうです。ペルー人はとても勉強熱心だと感じました。

授業では先生が話していることがさっぱりわからないので友人に訳してもらい、パネルを使わない日は通訳頼みで情けない気持ちになります。当初は5科目履修する予定でしたが、ついていけず3科目に減らしました。最初はついていけないのが当たり前だとは思いますが、減らして良かったです。今は水曜日と金曜日が授業の無い日ですが、友達とお昼を食べに行ったり、日本語を教えたり、スペイン語を少しでも練習できる環境を大学で探しに行っています。ほとんど0から始めたスペイン語ですが、友達となんとか話せるようにはなりました。もちろん授業はまだわからないのがほとんどでも、来た当初よりは上達していると思います。いろんな夢を抱いてこの留学に参加しましたが、まず一度白紙に戻して目の前のことを一つずつ片付けて次の段階へ進んでいきたいです。今はとにかくスペイン語！

短期で行った際にできた友人がとても優しいです。到着早々、パーティーに呼んでももらい、大学祭期間のフィエスタや趣味のギターの集いに誘ってもらい、友達の友達を紹介してもらって輪がさらに広がっています。特にフィエスタは踊る楽しさがよくわからず、そんなに気が乗らなかったものの何事も経験だと思い、踊っているうちにサルサや流行の踊りを教えてもらい楽しかったです。バスケの授業ではスポーツを通して友達をつくり、学部対抗スポーツ大会でもバスケで優勝したことで自分の存在をアピールするいい機会にもなりました。「バスケ見ていたよ、ケイだよ」と声をかけてくれる人もいて参加できてよかったです。今では大学のチームに所属しています。

スペイン語の授業は有料なので取ろうか迷っていたところ、友達が教えてくれることになりお昼にはほぼ毎日誘ってくれ、一緒に食べたあと芝生で教えてもらっています。また、放課後の時間があるときは担当教授がいる El Huerto 棟に通い、その職員や院生がたくさん話してくれます。教授とはほとんど会いませんが、勉強するのも寂しく感じ

た時もこの棟は家の次に安心できる場所です。

土日の授業がない日は、バスケの試合をしたり、友達と出かけたり、旅行に行ったりと何かしら用事があります。また、初めての一人暮らしで料理や洗濯、掃除に時間がかかります。特に洗濯は全て手洗いなので時間を要します。洗濯屋が一キロ 90 円でやっているのですが、営業時間が決まっていないので最後に利用した際は一週間洗濯が帰ってきませんでした。空気が乾燥しているので手洗いが速いです。

自炊はまずガスを買いました。大きなタンクが家のキッチンにあります。そして料理に使う用の水 8L をスーパーで買い、茹でものや直接口に入る水分量が多いものはこれを使います。最近胃が強くなったので野菜を洗うときは水道水です。外食するとき以外は生で野菜は食べません。こちらでの食生活は基本的に 1 日 2 食です。朝兼昼ごはんと夜です。昼ごはんは学内で食べます。とても安いんです。高くても 300 円くらいですが、私は食堂の制度が素晴らしいと思います。ここの大学の食堂は朝昼晩それぞれ食べられ、朝昼が 60 円、夜が 90 円で定食がおなか一杯に食べられます。ただし安い分とても人気で、お昼には長蛇の列が見られます。夕飯もチケットが限定されているそうです。しかし、この食堂当たり前のことですが学生以外使用できません。チケットを購入する際学生証が必要です。私は今学期聴講生なので、学生証を持っていません。なので、毎度友達に頼んで買ってもらっています。学生証は大学に入る際にも必要ですし、図書館にも入れません。他大学の日本人留学生は図書カードをすぐに作ってもらっていたので私も交流センターに頼んだのですが、全然できません。できるまで粘ります。

ペルーの物価と治安について書きます。物価は日本の 3 分の 1 くらいです。もちろんものによりますが、食べ物はかなり安いです。私の大学周辺は少し高めですが、それでも 500 円で立派なプレートが食べられます。スーパーで買う野菜や果物は、たまねぎ一キロ 30 円やパイナップル一つ 100 円などです。こちらの物価に慣れてしまうとこれでも高く感じてしまうので帰国するのが恐ろしいです。

もう一つ安いのは交通手段です。電車もありますが、少ししかないのでバスとタクシーが基本です。当初はアプリで呼び出せる安全なタクシーを利用していましたが、バスの十何倍の値段なので今では使っていません。というのもバスの値段が代替区間一律料金でどんなに高くても 60 円でおつりが来るか来ないか程度です。すぐ近くから終電まで幅広い範囲を安く移動できるので便利です。バスの種類はたくさんあるので、迷子にもなりました。数人だとタクシー乗るときもあり、値段は行き先を言って交渉です。交渉はずいぶん立派になったと自負しております。外国人価格にしてくる人もいたので注意です。ただバスにしてもタクシーにしても、夕方からの渋滞は世界でもかなりひどいことで有名です。渋滞がなければ 20 分で着くところを 2 時間かかるのが当たり前です。満員バスは少ししんどいので、近くまで来たらもう歩いてしまう方が楽なことも。

こちらの生活に慣れてきて、夜帰宅することも少なくありません。大学から家までは

自転車で15分と近いのですが夜は少し注意が必要です。ペルーは車優先なので、いきなり猛スピードで通過したり、ライトが消えていたり、ウインカーの合図がないので車の動きに注意しなければ事故に遭います。いつでも余裕持って、少しでも危険を感じたらもう数分待つことが大事です。車以外にも、私が住む隣の地域は夜一人で歩いてはいけないと言われていました。他にもバスで出かけた際に、ここはダメだという地域を覚えてもらうことが多く、責任を持って行動しようと思いました。

さて、この一か月の出来事や生活について書いてきましたが、改めてとても刺激を受けていると感じます。到着して一週間もしないうちに私の担当の人が辞職し、授業の場所も頼る人もわからず、買い物するのですら怖くて、新生活は不安でいっぱいでした。わからないから家に帰ってしまおう、ごはん食べないで夢に逃げてしまおうと思って一日一食生活をしていると、予想以上の寒さと栄養不足により2週間目にして風邪で寝込み心身共に追いやられていました。徐々に回復し、このままでは嫌だと思うようになってから、毎日何かしら小さな進歩ができれば上出来だと考える習慣をつけました。計り売りのパンやレシートでアイスを買う方法でもバスで出かけるのも、やってみたいけど勇気がなくてできなかったことができた時、自分はこれから大丈夫だと言い聞かせて今に至ります。他の日本人の留学生との待遇の差に落ち込んだり、でも負けたくないと思ったり、いろんな気持ちが自分の中で行き交っています。残りの数か月でどう成長できるかは自分次第で、慣れてきた頃に停滞せずにさらに踏み出すために計画的に行動を起こしていきます。辛くて逃げ出したい時も、楽しくて幸せな時も全て留学中のいい経験になると思うのでしっかり向き合っていきたいと思います。

応援してくれる家族や友人、そして次の派遣生徒にペルーの良いところ悪いところを知ってもらえるようもっと自分もこの国について知らなければならぬと感じました。